

【事例 1 4】

バリアフリービーチ普及事業

実施年度	平成9年度～	連携・協働形態	委託												
事業内容	<p>大洗サンビーチは、夏季多くの海水浴客でにぎわっている。 大洗町では、だれでも海水浴が楽しめるビーチを目指し、バリアフリービーチを開設している。</p> <p>大洗サンビーチには、通常の駐車場・シャワー・トイレ・更衣室のほか、身障者用の設備を整えている。さらに砂浜でも移動可能な「アウトドア用特殊車椅子」を揃えている。それらの設備の利用説明や備品の貸し出しは、監視活動をしているライフセーバーが受け持っている。</p>														
連携・協働の範囲	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>計画</th> <th>実施</th> <th>実施後の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>行政</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NPO</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				計画	実施	実施後の評価	行政				NPO			
	計画	実施	実施後の評価												
行政															
NPO															

〈行政〉

市町村名	大洗町	担当課	町長公室	電話	029-267-5111
------	-----	-----	------	----	--------------

連携・協働事業を行ったきっかけ (発意者:NPO)

大洗サンビーチは、ライフセーバーが海水浴期間の監視活動を行っている。そのライフセーバーから、だれでも海水浴が楽しめるビーチとして、高齢者や身障者でも利用可能な設備を整え提供したい。との申し入れがあり行政とライフセーバーの協議が始まった。

日本初ということで、どこにも例がないため手探り状態での準備・開設となった。知らしめるための手段としてはマスコミに情報提供、海水浴のチラシに掲載、障害者団体にDMと、考えられることを行った。

利用者の声を聞きながら、少しずつ施設の改良を加え現在に至っている。

役割分担

NPO側：バリアフリービーチの実施・施設の管理・利用者への説明、案内・備品等の貸し出し

行政側：施設の整備、補修・予算の確保・事業のPR

連携・協働によるメリット等(事業成果)

車椅子を意識することで、施設の見直し等を行い車椅子利用者以外にも快適な海水浴を提供することができた。

ライフセーバーとしては、だれでも楽しめる海水浴場をつくることができ、行政としては、大洗サンビーチ、大洗町のイメージアップにつなげることができた。

連携・協働する上で配慮した点

ライフセーバーは、海水浴期間の監視活動を中心に行ってきたが、車椅子の貸し出し等で監視活動

に支障が出ないか等の不安があったため、ライフセーバーを増員することで対応した。

施設については、仮設であるため既製品がなく、町、ライフセーバー、地元の工務店で話し合い、できるだけライフセーバーの考え方を優先して制作した。

課題と対応

バリアフリーといっても、車椅子利用者対応と考えて実施してきた。しかし、車椅子利用者でも人により症状に違いがあるため施設、備品の改善を検討していかなければならない。また、車椅子利用者以外の方でもさまざまな障害を持っている方がいる。一人でも多くの方に利用していただきたいため、何処まで対応できるか検討する必要がある。

連携・協働の今後の展望

バリアフリービーチは大洗町のイメージになりつつある。これからも一人でも多くの方に知っていただき、また利用していただけるようにPRと改善に努めていかなければならない。

また、バリアフリービーチの普及は、NPOとして取り組んできているところだが、バリアフリービーチが全国の何処の海水浴場でも取り入れていただければと思っている。

(協働相手のNPO)

団体名	大洗海の大学	電話	029-266-3322
住所	〒311-4311 東茨城郡大洗町大貫町 1212-57		

連携・協働事業を行ったきっかけ (発意者:NPO)

夏の海水浴期間中は海水浴客でにぎわう大洗サンビーチですが、10年前にライフセーバーによる監視活動がスタートしました。町が目指す「安全で、きれいで、楽しいビーチをつくりあげていく」ために、ライフセーバーは期間中いろいろなキャンペーンを実施し、いまやそれが定着してリピーターの海水浴客が多いことでも知られています。しかし、その中で、車いすを利用する人はごくまれでしかありませんでした。そこで、駐車場に車をとめて海を眺めている車いすの人に「どうして泳がないのですか?」と聞きました。答えは「どうやってビーチを移動するんですか?どこで着替えるか?トイレは?」ということでした。そこで大洗町の担当者と一緒に話し合いを持ちました。

連携・協働によるメリット等(事業成果)

最初は、企業をまわり協力を依頼しました。それと同時に、日本初ということでどこにも前例がなく、試行錯誤で体制を作りました。駐車場の確保 駐車場からパトロールセンターまでの動線確保 アウトドア用特殊車いすの貸出 ライフジャケットの貸出 更衣室の設置 トイレの設置 シャワー室の設置というハードの面はかたまり、次にソフト面ですが監視業務をしている女性のライフセーバーが貸出担当になり、扱い方の注意や更衣室までの案内などをサポートしました。使った後にアンケートを書いてもらい少しずつ改善をしていきました。1) トイレ待ちの時に炎天下で暑い(よしずを張った東屋を設置) 2) 更衣室がプレハブで使い勝手が悪い(専用の更衣室を作った) 3) トイレとシャワーが一体式なので、どちらか利用の場合は片方が使えない(もうひとつトイレ+シャワーを増強) 4) 車いすの数が不足(5台でスタートしたのですが現在18台) など毎年毎年進化を続けています。

連携・協働する上で配慮した点

できるだけマスコミにPRしてすこしでも「バリアフリービーチ」を取り上げて記事にしてもらうように働きかけました。さらに、障害者団体にも茨城県にバリアフリービーチができて、車いすの人が安心して楽しめますとDMを流しました。ハード面は大洗町が予算をとって整備し、ソフト面ではNPOがやるという分業していったことが良かったのだと思います。

課題と対応

身体障害者といっても1人1人症状が違い、1台の特殊車いすでは対応しきれてはいない。そこで、「リクライニングになるといい」「子供用の幅の狭いのがほしい」「もっといろいろなビーチに体制ができていと楽しめる」などの声が利用者から聞かれる。ハード面ではメーカーと相談して改善していく方向となっています。他地域への普及活動は現在取り組んでいます。

連携・協働の今後の展望

全国に1400のビーチがありますが、その中でライフセーバーが携わっているビーチの約1割の135ヶ所にソフト面での対応が可能ということで普及をまずしていきます。ようやく少しずつですが普及してきました。北海道石狩市、新潟県柏崎市、神奈川県横浜市・茅ヶ崎市・葉山町、千葉県成東町・九十九里町、静岡県熱海市・東伊豆町・阿津町、茨城県鹿嶋市・鉾田町・十王町、東京都小笠原村、和歌山県和歌山市、愛知県安城市、沖縄県座間味村などに配備済み。もっと日本全国に普及拡大をしていきたいと思います。